

令和5年度組織目標 知事協議概要

部 局 名	知事公室
日 時	令和5年(2023年)4月26日(水) 15:00~15:35
場 所	特別会議室
出 席 者	知事、江島副知事、大杉副知事、総合企画部長、総務部長、総務部管理監 知事公室長、防災危機管理監、次長、秘書課長、広報課長、防災危機管理局副局長、防災対策室長、原子力防災室長

発言者	発言概要
総合企画部長	知事の思い、県民や職員の声をしっかり踏まえて、施策構築につなげていきたいので、引き続き連携をお願いしたい。
総務部長	庁内の橋渡しとの話があったが、知事と職員をどうつないでいくかがポイント。みんなが納得できるような橋渡しや、知事に的確な情報が届くようお願いしたい。 広報戦略会議が具体的にどう動いているのか、庁内にも発信していただきたい。 また、各部署で初めて来られた方に滋賀県を紹介するときに、共通的なツールがあればと思うので、ぜひ検討していただきたい。
大杉副知事	各部署では目の前の仕事に一生懸命で、どうしても広報が後回しになるので、研修などを通じて広報マインドの向上やサポートをしてほしい。また、SNSでの発信に関しては、若手に頑張ってもらえば非常に伝わりやすいのではないかな。
江島副知事	知事・副知事から発信することを各部署に伝えることが多かったが、各部署からも双方向に情報を届けてもらいたい。 災害はいつ起こるか分からないので、新しいメンバーになって、どういう動きをしたらいいのかを考える意味でも、訓練を年度の早いうちに行うことも考えてもらいたい。 広報戦略を策定し、広報戦略会議を設置した結果、何が変わったのか。県民に伝わっていないとの声も聞く。とするならば、何か新たなステップアップしたことがあればいいと思う。
広報課長	広報戦略会議の中で共有するテーマ以外にも、県庁内ではいろいろな取組をしているので、広報課が自ら各担当課に情報を取りに行くなど、双方向の姿勢で取り組みたい。 また、若い人には新聞もテレビも見ない人が増えており、SNSなどでの発信にシフトしていく必要があるとも考えている。
知事	知事と庁内外をつなぐということであるが、私の思いは「知事の思い」でなく「県民の思いや願い」というつもりでやっている。知事は選挙で選ばれており、「知事の思い」でなく「県民の思いや願いと県庁をどうつなぐのか」というマインドセット、みんなを変えていく必要があるのではないかな。だから、知事が県民の思いや願いに寄り添った活動ができるように、これからもお願いしたい。
知事	その意味で広聴を大事にしたい。コロナのときには（知事への手紙に）目を通すだけでも心が折れそうなことも多く、職員も本当に大変だったと思う。そこを頑張って、まとめて、届けて、答えて、また浴びて、という繰り返しだったが、ここ（知事への手紙）に出せば知事に届くというルートができつつあるのではないかな。 とはいえ、こういう業務をどうやって効率的・効果的にできるかを一緒に考えていきたい。 また、1000件の批判があっても1件の「ありがとう」があれば、頑張ろうという気持ちになる。このフィードバックを、広聴から各所属に届けてもらいたい。
知事	広報については、ネタとタイム。あと、誰がどのように届けるか。ホームページ改修は今年度大事な時期を迎える。どんな会議をやっても、常時情報を流しているインフラであるホームページがどう見やすくなっているかが大事。 また、知事就任時から言っているが「広報官」がいてもいいのではないかな。メディアの前に出ないと広報マインドはできない。毎月、部長が交代で記者会見するとか、令和6年度に向けて考えてほしい。
知事	防災についてはやはり日常化。ベトナム、高齢者、障害者、外国人、女性も一緒に作る、防災自治、防災まちづくりのような新たな概念を滋賀から作れないか。「いざという時のための行動」というと重い感じがするが、前向きに取り組めるようなものが滋賀県なら作れるのではないかな。すでに取組があるのなら、それを紹介してもよい。 やはり訓練も大事。
防災危機管理監	訓練の前に意識が高いことが大事。水害に強いまちづくりの取組をしている地区は意識が高く、そこに防災のネタを注入すると、より強くなっていくと思う。また、災害がないと危機意識がなくなるが、危機意識のあるところはアクションを起こしやすい。

発言者	発言概要
知事	<p>そういう意味で言うと、他で起こった震災を我が事にすることが大事。危機管理センター1階の展示や情報の出し方にもっと工夫があってもよい。</p> <p>防災情報システムについては、入力しなくてもよいシステムを作ろう。入力する人がいなくなるから、入力できない災害が起こるから、そのときにも機能する防災情報システムを作ろう。</p> <p>防災会議の女性委員の比率については、半分まで高めるべき。3月に1回しかやらない、形式的なことしか議論しない防災会議はやめよう。いざという時に機能するネットワークづくりを意識してやろう。</p> <p>原子力防災については、緊急時対応能力を向上させるためにも、勉強と意見交換と訓練を。ぜひ原子力施設へ行ってほしい。早いうちに新しい職員は福島へ行って肌で感じてくるとよい。</p>